

2023（令和5）年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492300163	事業の開始年月日	平成26年4月1日
		指定年月日	平成26年4月1日
法人名	株式会社 美咲		
事業所名	グループホームみさき前川		
所在地	( 256-0813 ) 神奈川県小田原市前川540-5		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和5年9月15日	評価結果 市町村受理日	令和5年12月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

コロナ過が明け外出レクを再開させ、入居者様が少しでも楽しく自分らしく過ごして頂けるよう個々の対応に力をいれ月1回入居者様の様子をご家族様宛に新聞として発行しご家族様にもしっかり様子を報告しご家族様が安心して施設に親御様を預けてよかったと思っただけの施設です。また地域との交流を大切にして懇談会に出席して地域とも交流を深めている施設です。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和5年10月17日	評価機関 評価決定日	令和5年12月5日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、JR東海道線「国府津」駅から神奈中バス・橘団地行きに乗車し「小学校前」バス停で下車、徒歩約5分ほどの国道1号線から山側に入った閑静な住宅地にあります。相模湾や箱根の山々を望む風光明媚な高台です。運営法人は関西地区や神奈川県内にグループホームを運営し介護サービス事業を展開しています。

<優れている点>

日々理念を具現化し、入居者が自分らしい生活を自己決定できるよう支援しています。職員が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に取り組み、施設内研修などを実施し育成に努めています。職員会議は経験や技能習熟度別に少人数にグループ分けして実施し、意見を出しやすくし理解を深めています。身体拘束・虐待防止などの研修は外部施設で実施することで集中して学ぶことができます。夜勤者や時間調整が難しい職員も研修参加できるように管理者は何度でも同じ研修を開き、周知徹底し職員の知識技術の向上に努めています。また、食事は毎食職員が調理し、作り立ての食事を提供しています。車いすの位置や入居者の身体の傾きなどに留意し、誤嚥にも気をつけ、本人が食べやすいよう支援しています。入居者の希望に配慮し麺類なども提供し、楽しく食事ができるように努めています。

<工夫点>

管理者は法人の南海トラフ地震対策を主体とした災害対策委員長として「災害に役立つ豆知識」を発信するなど、職員の災害対策意識の向上に努めています。施設は小田原市及び地域広域自治会と防災協定を締結し地域避難所の指定を受け、防災用品などの備品を完備して入居者をはじめ地域住民の支援に努めています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホームみさき前川
ユニット名	1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/>	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/>	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/>	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/>	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念を基にサービス提供に努めています。	事業所理念「利用者様が自分らしく生活する為に自己決定できるよう支援します」は管理者の介護事業への思いを込め職員と話し合い策定しています。管理者は新人職員へのOJTをはじめ、日常の支援方法を具体的に指導しています。職員は日々学び、支援に努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域包括センターと連携し、地域の方々と施設が主体となり毎週1回地域交流としてラジオ体操を：地域住民の方と行なっています。	地域包括支援センター主催のラジオ体操に参加しています。11月からは自治会の協力も得て、開催場所を事業所前に移転する予定です。事業所前に移転することにより、参加した地域の人へトイレや水道を提供できる環境のもと、地域交流を推進して行きます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通じ、施設の情報開示や報告を行なっています。 災害時には風水害避難所として地域住民の受け入れも行なっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	施設の取り組みや実施状況を報告し施設運営に活かしています。	今年9月から対面形式で運営推進会議を再開しています。広域自治会長・地域包括支援センター職員・建物オーナーなどの参加を得ています。運営内容や事故・委員会活動・施設内研修などの状況報告を実施し、参加者の意見を日常の活動に活かしています。隔月開催しています。	運営推進会議が対面で再開されましたが、コロナ禍の影響もあり、入居者家族などの参加が出来ていません。今後、会議には入居者・家族などの参加が期待されます。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	災害時の一時受け入れや：施設開放等の依頼や、生活保護者の受け入れ相談等について連携をしています。	小田原市グループホーム・小規模多機能連絡会主催の、認知症の人が社会で活躍する機会と認知症に対する理解を広めることを目指す「注文をまちがえるまあるかふえ」や、家族、支援者、地域の人が少しずつ走りながらタスキを繋いでいく「RUN伴」などに、入居者や管理者が積極的に参加・協力しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束虐待委員会を3か月に1回開催し事例検討等を例題にし研修を行っています。	身体拘束をしないケア・虐待防止に向け職員研修を実施しています。研修では具体的な行為を示して、理解を深めています。入居者に配慮し外部施設を利用し時間外に実施しています。夜勤者は議事録を閲覧しています。法人主催の委員会も3ヶ月ごとに開催し、各事業所1名の委員が参加し取り組んでいます。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の研修会に参加し、施設内にて改めて研修会を開き情報共有し職員へ周知徹底しています。	「身体拘束・虐待防止委員会」の資料は日中の職員ミーティングなどで周知し共有しています。また、管理者は本部資料とは別に、より実践的な事例を交えた研修テキストを作成し、職員へ周知徹底しています。介護技術研修は入居者を交え、介護方法を実地に指導しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人が必要なケースの場合は施設管理者が対応しその後職員へ周知しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時には専門用語は使用せず誰にでも理解して頂けるよう時間を掛け丁寧に説明し、理解して頂いています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設管理者が定期的に入居者様の御家族に定期連絡し要望などをお聞きしその旨を職員へ申し送り等にて発信しています。	コロナ禍が続き、家族の面会も制限せざるを得ない時期があり、来訪は減っています。管理者は定期的に入居者家族に電話で本人の生活の様子を伝え、家族からはコロナ予防接種についての質問や要望などを聞いています。新聞を発行し入居者の様子を毎月知らせています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回の職員会議や：定期の研修会を開催し職員の意見を聞く機会を設け業務に反映させています。	毎月の職員会議は職員の経験年数や技量に応じて3グループに分けて実施することで、新人職員も意見が言いやすい状況を作っています。職員の発言で「粘土を使ったレクリエーション」などの提案など増えています。管理者は新たにSNSでの情報交換を始め、非常勤職員との連携強化にも取り組んでいます。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	本社管理職が代表に代わり施設訪問を行ない管理者以外の職員意見や職員個々の意見を施設管理者と状況把握に努めています。	職員の有給休暇や時間外労働の状況を把握しています。残業は毎月5時間以下に徹底し、時間外の会議や研修は残業扱いとしています。タブレットを導入し、定型文をあらかじめ作成することで、報告書や申し送りの作業の業務時間の短縮や効率化に取り組んでいます。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内にて定期的に介護技術研修等を行っています。	施設内研修は職員の自己評価票により課題を掌握して実施しています。介護技術研修は3グループに分け、レベルの同じ職員ごとに実施しています。職員は来年度から必須となる「認知症基礎研修」の受講や管理者の推薦で「実践者研修」などを受講し技能の向上に努めています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会に加入し地域の他施設の管理者との交流を施設管理者が行なっています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	必要に応じて施設管理者が職員個々と面談をし個々の状況把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	定期的に施設管理者が御家族に連絡をとり御家族の意見に耳を傾け相談の応じて問題解決しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	御家族からの相談を受けてから状況把握に努め早急に問題解決を行なっています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様本人や御家族と共に悩み楽しい時も、悲しい時も家族のように支えています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	御家族とも一緒に悩み考え気持ちを分かち合える関係を築いています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者様の個々と向き合い、気持ちを尊重しお話しやすい環境作りを行なっています。	コロナ禍が続き、友人など馴染みの人や良く出かけた場所などとの関係性は薄くなっています。外出が難しい中、施設内で懐かしい歌を歌う機会を増やしています。一人が歌い出すと周りの入居者も一緒に歌い楽しんでいます。美空ひばりのDVDなどの歌と映像も使い楽しめるよう工夫しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様個々の特徴を把握し、食席やレクリエーション時など個々に配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後もやり取りを行ない現状の様子などを聞き関係を継続している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	3か月に1回入居者個々のアセスメント、モニタリングを行ない入居者個々の状態把握に努めています。	声掛けする中で傾聴に努め、身体状況などから入居者ができることは促しています。「してほしい」などの利用者の直接的な要望には、すぐに管理者に伝え対応できるようにしています。発語の難しい方は家族に伝え意見を聞きながら関係を保って対応しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居相談時の面談にて過去の生活歴を把握し、御家族や親族から情報提供をお願いしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメントにて生活歴、既往歴を把握し個々のケアに活かしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の様子をケアスタッフに情報提供を求め担当者会議にてケア方法を検討し介護計画書作成に活かしています。	基本情報やアセスメント用紙を用いて計画作成者が利用者や家族から丁寧に聞き取りをしています。ケアプラン見直しには担当者会議を開き意見を出し合い作成しています。大きな変更がある場合には相談し、往診時の医師の説明に同席して貰うこともあります。その人に合った支援を一つ一つ試しながら医師と相談してすすめています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	担当者会議にてケア方法を定め介護計画書を作成し実施して頂き生活記録に反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者個々の様子観察を行ない状況に応じた対応をご家族に提案し対応を行なっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	個々の状態に合った事を積極的にとりいれるよう支援していきます。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医と連携をはかり必要に応じて御家族を交え相談を行ない、外部受診必要性や受診へのサポートを行なっています。	内科提携医の受診は医師と相談し、家族に説明して協力医へ移行しています。他科受診には管理者が同行しています。主治医へ日常における症状を伝え適切な治療が受診できるようにしています。減薬に努めています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護と訪問診療との連携をはかって支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報共有にて話し合いを行ない状態把握に努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に御家族に意向を伺い急変時や状態低下に伴い重度化の指針の説明や看取り介護についての同意書の説明を行ない同意を得ています。	職員は重度化した場合のマニュアル「ターミナルケアの心得」で勉強しています。家族には入居時説明の上同意書を交わしています。食物摂取量、むせの状況などの判断で医師から家族に説明して納得の上、終末期は医療に繋げるようにしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内研修や緊急時のマニュアルに従い周知徹底しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	法律で定められた年2回の消防訓練を行なうなどし、また今後は事業継続計画：実践指示書に沿い避難訓練等行なっていきたいです。	災害対策を運営規定に定め、事故安全、災害対策の2委員会を設けています。入居者参加で年2回避難訓練を実施しています。SNSアプリを使用し災害豆知識を配信しています。備蓄品リストを作成し一日単位で食料、飲料水を保管し、誰が見ても一目で確認できるような工夫をしています。施設は小田原市と自治会と3者で防災協定を締結しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者個々の尊厳に配慮しての言葉掛けを行なっています。	契約書に個人の尊厳を謳い、入居者の自己決定を理念としています。職員は接遇研修で学びグループワークを通した話し合いをしています。管理者は親しい中にも馴れ合わない関係や、居室内での音にも気を配る事、観察力を職員に要請しています。個人情報施錠し管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者個々が主張できる環境作りをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者個々に強要することはせず自身のペースで生活して頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自身の意思にて選んでいただき自身で行えるよう支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	お楽しみメニューを取り入れたり食事レクリエーションを行ったりし食を楽しんでいただいております。	栄養管理したメニューによる材料を業者から取りよせています。職員全員が調理し、温かい食事の提供を大切にしています。朝食は利用者の食べたい物を確認し提供しています。介助時には、利用者の姿勢に気をつけ、誤嚥しないように配慮しながらその人にあった形状で提供しています。利用者皆でデコレーションするなど、食を楽しめるように支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の状態に合った食形態の提供や1日の食事量、水分量の把握し個々の健康状態の維持を行ない栄養バランスのよい食事提供に努めます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの実施を自身で行えるという支援をしています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の状態に合わせた排泄方法を取り支援しています。	全て介助せず、出来ることは自身で行ってもらい、入居者の出来ない部分を確認をし手伝っています。プライバシーに配慮し見守りと、できたかどうかの確認をしています。夜間は定時誘導や声掛けを促し、昼間は体を動かすことを念頭においてケアしています。失敗には原因を探り周囲に配慮したケアを行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	施設内の運動量は少ない為、近くへの散歩実施などを行ない腸の動きを少しでも良く出来ればと思行なっています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	大きな施設と違いゆったりとした時間を設け個々に合わせた入浴の支援を行っています。	週2回の入浴を原則に、イベントや職員体制を考慮してその日の入浴担当を決めています。お湯の替えは都度行い清潔を保っています。ゆったり時間を取り快適な入浴をと配慮しています。入浴習慣の違いや希望は家族の了承を取り、声掛けしたり、人を変えるなどチームで対応しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者個々の身体状況に合わせ個々の気持ちを尊重した休息：安眠できるような支援を行なっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	声掛けにて意思を尊重し服薬管理します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	自身にて出来ることを自身にて行なえるよう支援し、職員のお手伝いを積極的に声掛けにて行って頂くなど活動の幅を広げられ日々少しでも充実した生活がおくれるよう支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出レクリエーションの実施を積極的に行なうのと、日々近隣への散歩の実施や地域の方々とのラジオ体操に参加するよう支援しています。	コロナ禍以前の外泊や家族との外出、外出レクリエーションを再開しています。久しぶりに出かけた小田原市内の上府中公園で入居者の笑顔を見ることができています。11月からは事業所前で地域の人と一緒にラジ体操を予定しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理は行なっていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	お手紙に関しては返信のお手伝いをさせて頂いたりし、また電話に関しては個々で携帯電話を利用していただいております。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を感じて頂けるような空間に装飾などを一緒に制作したりしています。	ガラス張りの玄関や幅の広い廊下、すっきりとしたリビングの壁面など、くつろいで家にいるような環境です。オープンキッチンのリビングは3つのテーブルを繋げ広々とし入居者同士会話で楽しめるようにしています。清掃に務め、清潔を保持しています。「地震発生したら」の張り紙を掲示し万一来に備えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間にては個々が自由に移動して自身の意思を尊重しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内は個々の好みにより置物や掲示物など自由な空間にして頂いております	窓はストッパーを付けて安全に留意し、室温は空調管理しています。エアコン、照明、カーテン、介護用ベッドが備えられています。備品は必要最低限としていて室内はすっきり整理され安全です。毎日清掃消毒し、個人負担のし好品を居室担当者が管理しています。	環境管理に配慮していますが、その人らしい部屋づくり、好きな物をおいて自由な時間を過ごせる居室といった面での配慮が期待されます。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々が出来ることを意思を尊重し少数の施設のメリットを活かし行なっております。		

事業所名	グループホームみさき前川
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念を基にサービス提供に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域包括センターと連携し、地域の方々と施設が主体となり毎週1回地域交流としてラジオ体操を：地域住民の方と行なっています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議を通じ、施設の情報開示や報告を行なっています。 災害時には風水害避難所として地域住民の受け入れも行なっています。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	施設の取組みや実施状況を報告し施設運営に活かしています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	災害時の一時受け入れや：施設開放等の依頼や、生活保護者の受け入れ相談等について連携をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束虐待委員会を3か月に1回開催し事例検討等を例題にし研修を行っています。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止の研修会に参加し、施設内にて改めて研修会を開き情報共有し職員へ周知徹底しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見人が必要なケースの場合は施設管理者が対応しその後職員へ周知しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居契約時には専門用語は使用せず誰にでも理解して頂けるよう時間を掛け丁寧に説明し、理解して頂いています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設管理者が定期的に入居者様の御家族に定期連絡し要望などをお聞きしその旨を職員へ申し送り等にて発信しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に1回の職員会議や：定期の研修会を開催し職員の意見を聞く機会を設け業務に反映させています。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	本社管理職が代表に代わり施設訪問を行ない管理者以外の職員意見や職員個々の意見を施設管理者と状況把握に努めています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	施設内にて定期的に介護技術研修等を行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	グループホーム連絡会に加入し地域の他施設の管理者との交流を施設管理者が行なっています。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	必要に応じて施設管理者が職員個々と面談をし個々の状況把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	定期的に施設管理者が御家族に連絡をとり御家族の意見に耳を傾け相談の応じて問題解決しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	御家族からの相談を受けてから状況把握に努め早急に問題解決を行なっています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様本人や御家族と共に悩み楽しい時も、悲しい時も家族のように支えています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	御家族とも一緒に悩み考え気持ちを分かち合える関係を築いています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居者様の個々と向き合い、気持ちを尊重しお話しやすい環境作りを行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様個々の特徴を把握し、食席やレクリエーション時など個々に配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	契約終了後もやり取りを行ない現状の様子などを聞き関係を継続している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	3か月に1回入居者個々のアセスメント、モニタリングを行ない入居者個々の状態把握に努めています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居相談時の面談にて過去の生活歴を把握し、御家族や親族から情報提供をお願いしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	アセスメントにて生活歴、既往歴を把握し個々のケアに活かしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	日々の様子をケアスタッフに情報提供を求め担当者会議にてケア方法を検討し介護計画書作成に活かしています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	担当者会議にてケア方法を定め介護計画書を作成し実施して頂き生活記録に反映しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居者個々の様子観察を行ない状況に応じた対応をご家族に提案し対応を行なっています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	個々の状態に合った事を積極的にとり入れるよう支援していきます。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診医と連携をはかり必要に応じて御家族を交え相談を行ない、外部受診必要性や受診へのサポートを行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護と訪問診療との連携をはかって支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報共有にて話し合いを行ない状態把握に努めています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に御家族に意向を伺い急変時や状態低下に伴い重度化の指針の説明や看取り介護についての同意書の説明を行ない同意を得ています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	施設内研修や緊急時のマニュアルに従い周知徹底しています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	法律で定められた年2回の消防訓練を行なうなどし、また今後は事業継続計画：実践指示書に沿い避難訓練等行なっていきたいです。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者個々の尊厳に配慮しての言葉掛けを行なっています。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	入居者個々が主張できる環境作りをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	入居者個々に強要することせず自身のペースで生活して頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	自身の意思にて選んでいただき自身で行えるよう支援しています。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	お楽しみメニューを取り入れたり食事レクリエーションを行ったりし食を楽しんでいただいております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個々の状態に合った食形態の提供や1日の食事量、水分量の把握し個々の健康状態の維持を行ない栄養バランスのよい食事提供に努めます。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後の口腔ケアの実施を自身で行えるという支援しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の状態に合わせた排泄方法を取り支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	施設内の運動量は少ない為、近くへの散歩実施などを行ない腸の動きを少しでも良く出来ればと思行なっています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	大きな施設と違いゆったりとした時間を設け個々に合わせた入浴の支援を行なっています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	入居者個々の身体状況に合わせて個々の気持ちを尊重した休息：安眠できるような支援を行なっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	声掛けにて意思を尊重し服薬管理します。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	自身にて出来ることを自身にて行なえるよう支援し、職員のお手伝いを積極的に声掛けにて行って頂くなど活動の幅を広げられ日々少しでも充実した生活がおくれるよう支援しています。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	外出レクリエーションの実施を積極的に行なうのと、日々近隣への散歩の実施や地域の方々とのラジオ体操に参加するよう支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	金銭管理は行なっていません。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	お手紙に関しては返信のお手伝いをさせて頂いたりし、また電話に関しては個々で携帯電話を利用していただいております。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節感を感じて頂けるような空間に装飾などを一緒に制作したりしています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共用空間には個々が自由に移動して自身の意思を尊重しています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室内は個々の好みにより置物や掲示物など自由な空間にして頂いています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個々が出来ることを意思を尊重し少人数の施設のメリットを活かし行なっております。		

2023年度

事業所名 グループホームみさき前川  
 作成日： 令和5年 12月 10日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	事業所と地域の付き合い	地域包括センターと協力して地域との関わりを深め週1回のみさき前川でのラジオ体操参加を促進し、その他地域との交流の場を築いていく。	包括支援センターの協力を得て地域イベントを行なうなど更に地域密着の施設になるよう取り組む。	12ヶ月
2	8	運営に関する職員意見の反映	月に1回は職員会議を実施しているが更に職員の都合や職員の介護知識などに合わせたグループワークや懇談する機会を設ける。	グループワークは現在でも実施できているがグループの編成を定期的に変え行なうなど意見交換を行うなどまた、施設外での交流の場を作る。	12ヶ月
3	13	職員を育てる取り組み	施設内にて定期的に研修を実施していく。	研修の内容は統一し、職員の個々のレベルに合わせたメンバーにしグループワークにて演習を行ない職員のレベルの底上げを行なう。	6ヶ月
4	34	急変や事故発生時の備え	入居者の持病にての対応マニュアルなどを作成して対応していく。	各入居者ごとの対応方法の職員全体での共有と演習を行ない、事故発生時のマニュアルの演習方式にて定期的に行ない備える。	6ヶ月
5					ヶ月